



Messe München
International

BAU 2011 ファイナルレポート

第 19 回 国際建築・建材・建築システム専門見本市
2011 年 1 月 17 日～22 日
ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場

2011 年 1 月 22 日

BAU 2011 - 史上最高となる 238,000 人が来場！

Summary

- 総来場数は前回は 12% 増
⇒ 世界最大にして最重要な建材業界専門見本市 BAU は、新たな次元へ
- ドイツ国外からの来場割合が
前回の 18% から 25% に
⇒ 国際的な業界専門見本市の地位を
確固たるものに
- 建築設計事務所からの来場割合も
22% へと増大



Facts & Data

会 期	2011 年 1 月 17 日(月)～22 日(土) 9 時 30 分～18 時 30 分(最終日は 17 時まで)
会 場	ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場
主 催	ミュンヘン見本市会社 (Messe München GmbH)
規 模	全 17 ホール 180,000 m ²
出 展 社 数	46 ヶ国から 2,058 社 (うちドイツ国外出展社: 530 社)
来 場 者 数	150 ヶ国以上からおおよそ 238,000 人 (うちドイツ国外来場者: 約 60,000 人)
主 な 出 展 品	素材(亜鉛、アルミ、石<天然・人造>、ガラス、スチール・ハイグレードスチール、セラミックス、土、銅、プラスチック、木材)、化学建材(漆喰、絶縁材、接着剤、塗料、ニス、防熱・防寒・防火・防音材)、軽石、ファイバーセメント、コンクリート・多孔質コンクリート、タイル、瓦、レンガ、ケイ灰レンガ、エレベータ、エスカレータ、階段、屋根材、屋根窓、床仕上げ材、鍵、シリンダ、門、ドア、ドア枠、窓、シャッター、ブラインド、セキュリティ・侵入監視システム、ゲート・駐車システム、ゲート・ドア駆動技術、出入管理システム、エネルギー・ソーラー技術、太陽光発電、遮光・ファサードシステム、空調・換気技術、ガラス・プレハブ・木造建築、ビルディングオートメーション、アウトドアデザイン、空間コンセプト、建築関連ソフトウェア・コンピュータソリューション、サービス、業界誌 など
出展日本企業	オプテックス(株)、セイコーエプソン(株)、三菱樹脂(株) ほか
専 用 U R L	www.bau-muenchen.com (英語、ドイツ語、日本語抜粋版をはじめ全 17 ヶ国語)

BAU 2011 – 国際建築・建材・建築システム専門見本市は、史上最多の来場数を記録、業界を世界的にリードする専門見本市としての地位を改めて確固たるものにした。会期中、およそ 238,000 もの業界関係者が来場、これは 2009 年開催比 12%増に値する。50 年近くの歴史を有する BAU への来場数が、これほどの伸びを見せたのは初めてのことだ。特に、ドイツ国外からの参加者については、新たな次元に突入したと言える。というのは、ドイツ国外から約 60,000 人が BAU を視察、全来場者に占める割合も、前回の 18%から 25%へと急拡大したからだ。建築家・プランナーも 52,000 人超が来場、同じく全来場者に占める割合が 22%へと増大した。

世界 150 ヶ国以上から、業界関係者が BAU 2011 を訪れた。会期初日からホールは人で埋め尽くされ、『本当に圧倒された』と多くの出展社が語っている。ドイツに次いで来場者が多かったのは順に、オーストリア、スイス、イタリア、トルコ、チェコ、スロベニア、ロシア、ポーランド、フランス、そしてオランダだった。ほとんどの国で来場数の大幅な増加が見られたが、特に顕著だったのは欧州域外、例えば日本、インド、米国、カナダ、アラブ首長国連邦などだ。なかには来場数が倍増した国もあった。

ミュンヘン見本市会社 常務取締役 Dr. ラインハルト・プファイファーは、次のように述べている。『BAU はあらゆる期待を超え、格段に充実した。ドイツ国外からの来場増と国際色がさらに豊かになったことが、全体の来場数増に貢献した。ドイツ国外からの来場数はおよそ 60,000 人に達し、そしてその割合が全来場者の 25%を占めたことは、BAU がまさに世界をリードする国際的な業界専門見本市であることを強く示すものと言える。加えて、建築家・プランナーが集結する世界 No.1 のイベントとして、BAU の評価がさらに高まった。また、BAU が一流のビジネスチャンスを提供でき、出展・来場者が高い満足度を示して下さったことも、特筆すべき点だ。』

華やかなブース、人であふれるホール、真剣な商談、全ての顧客の希望と膨大なニーズを満たそうと多忙をきわめるブーススタッフ・・・これが BAU 2011 の様子だった。出展申込が殺到し、開催およそ 1 年前の時点で多くの企業がすでにキャンセル待ちをする事態となったが、最終的には世界 46 ヶ国から建材・コンポーネント・システムメーカー2,058 社が出展、180,000 m²ものスペースに最新製品・ソリューションを展示した。業界の景気が持ち直しつつあるなかでの BAU 開催とあって、多くの出展社が高い期待を胸に参加したが、出展社の予想をはるかに超えることとなった。特に、ドイツ国外からの来場数が劇的に伸びたことは、驚きをもって受け止められた。『BAU をさらに国際色豊かにし、かつ世界を代表する業界専門見本市の地位を確固たるものとする判断は、誤りではなかった。というのは、今回ドイツ国外からの来場数が飛躍的に伸びたからだ。同時に来場者の質も高くなっている。本当に多くの建築家がわれわれのブースを訪ねてくれた』とは、Deutsche Steinzeug Cremer & Breuer 社 CEO で、BAU 諮問委員会会長であるディーター・シェーファー氏の弁だ。

Hörmann 社経営者で BAU 諮問委員会副会長マルティン・ホフマン氏は、『とても素晴らしい。ドイツ国外、特にアジア・東欧からの来場者が本当に多かった』と振り返る。Schüco 社コーポレートコーディネーション部長であるトーマス・ラウリツェン氏は同僚の意見を集約し、『われわれが経験したなかで最も成功を収めた BAU だった。これまでにない多くの顧客がブースを訪ねてくれたが、なかでも顕著だったのは EU 域外・ドイツ国外からの来場増だ』と、コメントを寄せている。



BAU の快進撃は、出展・来場数のみにとどまらない。BAU は、情報・コミュニケーションの場として、特に将来の建築を綿密に計画できる最新開発・イノベーションが一堂に会する場として、商談がなされ契約に結びつくビジネスの場として、建築家・プランナーから建築業に至るまで、世界中の業界関係者にとって必須の見本市である。『顧客は BAU へ喜んで来てくれる。彼らはモチベーションが高く、具体的に新たなアイデアを探している。BAU はまさに受注が取れる見本市だ。決めに来ている顧客が本当に多い』とは、Mapei 社社長 Dr.ウーヴェ・グルーバー氏だ。

BAU 参加のために特別なブースコンセプトを開発し、イノベーションも BAU にあわせている、と多くの出展社が口をそろえる。『このようなことは BAU だけだ』と話すのは、ThyssenKrupp 社のトーマス・ポロニイ氏だ。また、Land Porcelanico 社のホアン・カタリン・イリシン氏は、『われわれのブースに来訪する顧客の実に約 70%が建築家だ。これこそが、われわれが BAU に出展する最大の理由だ。BAU では、建築家とコンタクトが取れ、拡充できる』と評している。これは、BAU が建築家・プランナーと接触ができる世界 No.1 の機会であることを裏付けるものだ。

これらの高評価は、マーケティング機関 TNS Infratest によるアンケート結果にも反映されている。それによると、来場者の 96%は BAU を『すばらしい～良い』と評価し、97%は次回も来場したいと回答している。また、特に高評価を得たのは、包括的な出展製品群、業界をリードする企業の出展だ。来場者の 93%は BAU が業界を代表する専門見本市と認識している。また、具体的に契約や商品の買いつけ予定で来場した人は、その目的を達成することができた、と寄せている。加えて、ほぼ全ての来場者は契約・商品買いつけの準備、あるいは新たなビジネス関係の構築について、高い満足度を示している。それぞれの出展製品群について、少なくとも来場者の 90%が『すばらしい～良い』と評価を下した。なかでもアルミ、ガラス、木・プラスチック分野は、特に高評価だった。唯一評価が伸び悩んだのは、屋外展示スペースについてだ。一方で、併催プログラム、なかでもフォーラム・特別展示は、来場者から高い支持を受けた。業界関係者の来場割合は 96%にのぼり、BAU は業界による業界のための専門見本市であることを改めて示した。また、業界の将来予測が明らかに改善されたことも挙げておきたい。2009 年開催ではおよそ半数が経済情勢を『すばらしい～良い』と回答したが、今回は 82%が将来を明るく見通している。



出展社の評価も非常に高く、97%の出展社が BAU を『すばらしい～良い』と答え、次回 2013 年も継続出展したいとしている。来場者の質については出展社の 95%が、来場者の国際性については前回から急伸し 85%の出展社が高い満足度を示した。また、来場者同様出展社においても、2 年前より将来の見通しが明るく、出展社の 85%が将来に期待を寄せている。

1 月 17 日、ドイツ連邦共和国 運輸・建設・都市開発大臣 Dr. ペーター・ラムザウアー氏の『テープカット』で BAU はスタートを切った。大臣は BAU の重要性と意義を強調、2011 年の業界は 1.5～1.8%の成長が見込まれると述べた。このオープニングセレモニーには、Dr. ラムザウアー大臣の招待を受け渡独した、トルコ公共事業居住大臣ムスタファ・デミル氏も参加した。デミル大臣は、BAU の規模の大きさ、華やかなブースデザインの多さに深い感銘を受けた。

BAU 2011 の主要トピックスは、サステナブル建築ならびに永続的な建築だ。この 2 つのテーマに関するさまざまな特別展示や、フォーラム・会議では多くの講演が行われた。例えば、ドイツ連邦共和国 運輸・建設・都市開発省主催会議『未来への建築 - サステナブル・高エネルギー効率・イノベーション』、同経済技術省主催イベントシリーズ『未来の建築』などだ。なかでも、マドリッドで開催されたソーラー・デカスロン・ヨーロッパで第 2 位を獲得した、ローゼンハイム大学設計のソーラー住宅は一番の注目を集めた。BAU の会場に建築され、幅広い業界関係者に初めて紹介された。

このほか、併催プログラムとして行われた 3 フォーラムも大きな関心を集めた。特に、ピーター・クック氏、フランソワーズ＝エレヌ・ジュルダ氏といった国際的な建築家が、計画やプロジェクトを紹介した『建築の未来フォーラム』には、多くの来場者が詰めかけた。建築と産業の協力、建築の将来研究がテーマだった『マクロ建築フォーラム』も、ほぼ満席状態だった。『インテリジェント建築フォーラム』の内容は、リノベーション・近代化プロジェクトから、パッシブ住宅やプラスエネルギー住宅のような最先端建造物に至るまで、

広範にわたる。ドイツ連邦共和国 運輸・建設・都市開発省は、リサーチ戦略『建築の未来』で関連のプロジェクトを紹介した。

BAU 会期中には、業界誌『DETAIL』協力《Aesthetics and Construction》、同『Bauwelt』協力《The First Work》など、著名な建築賞をはじめ、多くの賞が授与されている。

- The Award “Built on IT – Building jobs with a future”
- Award for Product Innovations
- Award for Innovation in Architecture and Building
- Building Material Oscars

さらには、オンラインポータル Archi-Europe と協力し、BAU が主催する新たなコンペ《ArchiWorld Academy》が正式にスタートを切った。このコンペは 2 年以上にわたり、世界中の建築を学ぶ学生から参加を募る。12 名の世界をリードする建築家が審査する本コンペの勝者は、BAU 2013 で発表され、有名な建築家の事務所で研修できる権利が贈られる。

参加者に最も人気があったのは、BAU 会期中に初めて開催された『建築のタベ』だ。このイベントには、BAU 出展・来場者はもとより、関心のあるミュンヘン市民も参加できる。金曜日の夕方、ミュンヘン市内・近郊の 30 を超える建築物が参加者に開放、それぞれを結ぶ無料シャトルバスが 19 時から深夜にわたり運行され、好評を博した。

次回 BAU 2013 は 2013 年 1 月 14 日～19 日、ドイツ・ミュンヘンにて開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.bau-muenchen.com まで



次回予告

- 建材関連見本市 -

ConBuild Indonesia 2011・・・**NEW!!** www.conbuild-indonesia.com (英語)

2011 年 4 月 13 日(水)～16 日(土) 於: ジャカルタ国際展示場

ConBuild Vietnam 2011 www.conbuild-vietnam.com (英語)

2011 年 12 月 7 日(水)～10 日(土) 於: サイゴンエキシビション&コンベンションセンター

ROOF+TIMBER International 2012 www.dach-holz.com (英語/ドイツ語)

2012 年 1 月 31 日(火)～2 月 3 日(金) 於: シュトゥットガルト見本市会場

BAU 2013 www.bau-muenchen.com (英語、ドイツ語、日本語抜粋版をはじめ全 17ヶ国語)

2013 年 1 月 14 日(月)～19 日(土) 於: 新ミュンヘン国際見本市会場

資料請求、出展申込み、入場券購入、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 e-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.com (英語/ドイツ語)